



































































うな、現実の世界に存在する秩序と君主の心の道徳性とを切り離す考え方に対する反発があると言える。以上のように、「勉彊行道大有功」の内容からは、朱陳論争を経て、朱熹の主張を踏まえてそれを乗り越えようとする形で、自己の思想を発展させている点が看取できるのである。陳亮思想の中での「勉彊行道大有功」の位置を確認して、本稿を終えることとしたい。